

2015/11/27

建設通信新聞 6面

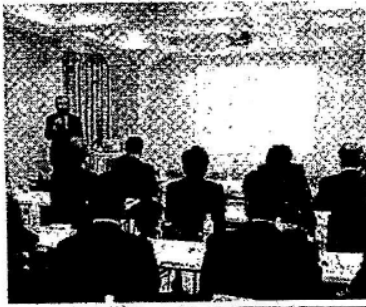
目指して」と題して講演した。

市民組織の合意 形成ノウハウ学ぶ

CNCPがセミナー

特定非営利活動法人シビルNPO連携プラットフォーム(CNCP、山本卓朗代表理事)は、仙台市青葉区のノータブランカで第2回市民パワーアップセミナーin仙台を開いた。写真。建設関連企業の技術者ら約20人が、市民組織が震災復旧にかかわった事例などを学んだ。

CNCPは、2014年度



に土木学会が100周年記念事業の一環として、土木分野のNPO法人の情報交流や人材開発、関連組織とのネットワーク化などを支援し、基盤強化を図るため発足した。冒頭、CNCPの有岡正樹

常務理事は、組織概要や活動の現況を紹介した上で「土木学会の知恵を地域に生かし、継続的に貢献していきたい」と語った。また皆川勝常務理事は、NPOの役割や必要性などを訴えた。

この後、NPO研修・情報センターの世古一穂代表理事が「市民連携のスキルとは？」参加のデザインを学ぼう―、菅原昭彦気仙沼内湾地区復興まちづくり協議会長が「復興をめぐる気仙沼市民の活動、気仙沼方式に学ぶ」と題して講演した。

このうち菅原会長は、自身も所属する市民組織が宮城県気仙沼市の防潮堤復旧計画などにかかわった事例を報告。講演を通じて行ったワークショップでは、参加者らが市民組織における合意形成のノウハウなどを学んだ。